
 学 会 記 事

第 71 回新潟癌治療研究会

日 時 平成 23 年 7 月 30 日 (土)
午後 1 時～
会 場 朱鷺メッセ 新潟コンベンショ
ンセンター 中会議室 301

I. 一 般 演 題

1 オキシジェンバイオセンサーシステムによる 新規抗癌剤感受性試験法の開発

鈴木見奈子・田中 彰*・又賀 泉**

日本歯科大学新潟生命歯学部
口腔外科学講座
日本歯科大学新潟生命歯学部
先端研究センター再生医科学
日本歯科大学新潟病院口腔外科
日本歯科大学新潟生命歯学部
先端研究センター再生医科学*
日本歯科大学新潟生命歯学部
口腔外科学講座**

【目的】これまで我々は細胞代謝を指標として抗癌剤感受性を測定する溶存酸素測定装置を開発し、検討を行ってきた。しかし専用の溶存酸素測定装置が必要であるため、測定可能な施設に限られるという課題があった。そこでオキシジェンバイオセンサーシステム（以下 OBS）を用いた抗癌剤感受性試験に注目した。両者を比較し抗癌剤感受性試験の有用性を検討したので報告する。

【方法】使用した細胞株は HSC-3, NUTOS, HL-60 である。抗癌剤は 7 種類を用いた。酸素測定装置は、電極を差し込み装置にセットし測定した。OBS はプレート内に細胞を入れ、ミネラルオイルを積層し、さらにマイクロプレートシールで

封鎖し測定した。

【結果】溶存酸素測定装置を用いた結果と OBS を用いた各種抗癌剤感受性試験の結果は一致していた。

【考察】OBS は簡便に測定することが可能であり、口腔内の極僅な組織量でも判定できる新規抗癌剤感受性試験法として有用であることが示唆された。

2 口腔扁平上皮癌に対する浅側頭動脈逆行性動 注化学療法の臨床的検討

小根山隆浩・田中 彰・高田 正典
山口 晃・又賀 泉*・不破 信和**
日本歯科大学新潟病院口腔外科
日本歯科大学新潟生命歯学部
口腔外科学講座*
南東北がん陽子線治療センター**

口腔扁平上皮癌に対し浅側頭動脈逆行性動注化学療法を施行した患者 14 例について臨床的検討を行った。性別は男性 7 例、女性 7 例、平均年齢 71 歳、原発部位は、上顎歯肉 4 例、頬粘膜 4 例、舌 3 例、口底 2 例、下顎歯肉 1 例であった。動注化学療法は血管透視下に浅側頭動脈より逆行性にカテーテルを挿入し、腫瘍栄養血管に超選択的、または、外頸動脈に選択的に留置した。抗癌薬は 30mg/m² で 1 週間に 1 回投与した。CDDP 投与量は 100mg から 870mg で、平均 366.1mg であった。動注回数は 4 回から 10 回で、平均 6.8 回であった。臨床的治療効果判定では、CR が 10 例、PR が 4 例で奏効率は 100% であった。予後では、CR の 10 例は非担癌状態で生存し、PR の 4 例のうち 2 例は担癌状態で生存、2 例はその後の治療にもかかわらず腫瘍死であった。本療法は経静脈投与よりも治療効果が高く、副作用も少ないことより有効な治療法であると思われた。